

## 令和3年度青森港国際化物流調査 報告書（概要）

### 1 調査の概要

青森港国際化推進協議会が令和2年度に実施した、青森港の利用ニーズの調査や青森港利用輸出ルートの検討等から、可能性が示された北海道港湾等との連携による輸送ルート構築について、既存のフェリー機能を利用した他港との連携による輸送実験や調査を行い、実際に青森港から直接輸送した状況に近似したデータの収集を狙うとともに、新たな物流ルートとしての実用性を検証する調査を行うもの。

### 2 トライアル輸送の実施に向けた検討

青森港を利用したトライアル輸送の実施に向けて、実施工程の作成、「リンゴ」輸出に向けて基本的な流れや主な物流の内容等の検討を行った。なお、トライアル輸送は令和3年11月を実施目標とした。

### 3 「リンゴ」輸出に向けての関係者等の選定

青森港からは、函館港まで津軽海峡フェリーを利用することを前提とし、函館港から東京港は不定期航路を有する「井本商運」を利用するものとした。

「リンゴ」荷主については、ジェトロ青森の資料をもとに複数の「リンゴ」輸出業者に照会した結果、対応可能と回答があった「片山りんご(株)」を荷主として選定し、各種船社等関係者を決定。

### 4 トライアル輸送時の想定されるスケジュール案

トライアル輸送実施時期について11月としたスケジュールを作成。輸送した場合の費用も算出した。

- ・台湾向け発は、青森を出てから9日後と想定
- ・費用については、1コンテナ当たり約60万円と想定。

### 5 トライアル輸送の経緯

片山りんご(株)の輸出業務を担う東洋埠頭(株)の利用船社から、世界的なコンテナ不足等により、コンテナの調達が困難である旨の連絡があった。コンテナが調達できないため、中止とした。

### 6 次年度以降のトライアル輸送実施の想定案

今回の調査で見た課題を踏まえ、トライアル輸送実施に向けた条件やほかの港におけるトライアル輸送の実施イメージとして、函館港、室蘭港、青森港での案を作成し、それぞれの問題点を掲げた。

### 7 次年度のトライアル輸送実施に向けた課題と対応策

各港の利用を想定したトライアル輸送実施の課題を整理し、次年度に向けた検討事項の対応策から、次年度のトライアル輸送実施に向けた調査内容（案）を具体的に記載。



#### 調査結果

今後の実施にはコンテナの確保が必須の課題であるものの、定期航路があった函館港の利用が現実的なルートであるため、来年度も引き続き連携する必要がある。

（提案）次年度の調査内容

- 1 青森市及び津軽地域における外貨貨物の搬出入の実態把握
- 2 上記を踏まえた対象候補の抽出と対象候補荷主へのヒアリングの実施
- 3 函館港港湾管理者との勉強会の実施
- 4 トライアル輸送の再実施に向けた段取りの検討